

2016/11/29 慶應義塾大学

清家篤塾長が英国オリンピック委員会を訪問

11月18日、清家篤塾長がロンドン市内の英国オリンピック委員会(British Olympic Association, 以下BOA)を訪問し、Hugh Robertson会長とCEOのBill Sweeney氏と懇談しました。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックでは、英国チームが慶應義塾大学日吉キャンパスの体育施設において大会前の事前トレーニングキャンプを実施することが決定しています。Robertson会長は、「オリンピックは東京が世界の中心になって注目を集める貴重な機会。慶應義塾とパートナーになることをBOAとしてもとても光栄かつ名誉な事と思っている」とし、清家塾長は「英国チームの受け入れが、スポーツ面での交流やキャンパスのグローバル化に繋がることを期待している。塾生たちがオリンピック本来の趣旨や意義を理解し、さらに深く英国を理解する機会になればよい」と、BOAとの連携に期待を寄せました。

なお、清家塾長によるBOA訪問と並行して、11月16日～18日、本学の職員による視察チームが、King's College London、University of Birmingham、Loughborough Universityの3校を訪問し、2012年のロンドンオリンピックにおける各大学の取り組みについてヒアリングを行いました。各大学からの助言を受け、今後の義塾の取り組みに活用していく予定です。

〈参考〉

東京五輪における英国事前キャンプ地 覚書締結式 <https://www.keio.ac.jp/ja/news/2015/osa3qr000001dc4w.html>

University of BirminghamのWebサイトに掲載された視察チーム訪問に関する記事

<http://www.birmingham.ac.uk/news/latest/2016/11/Olympic-hosts-visit-Birmingham-for-advice-on-hosting-elite-athletes.aspx>



2017/03/23 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

東京2020オリンピック英国チーム事前キャンプ契約締結式

3月21日(火)、日吉キャンパス協生館のイベントホールにて、「東京2020オリンピック英国チーム事前キャンプ契約締結式」が行われ、清家篤塾長、ヒュー・ロバートソン英国オリンピック委員会(BOA)委員長、林文子横浜市長、福田紀彦川崎市長、竹田恆和日本オリンピック委員会(JOC)会長が出席しました。

慶應義塾大学、横浜市、川崎市は、東京2020大会における英国オリンピック代表チームによる事前キャンプの受け入れについて、2016年2月にBOAと覚書を締結しました。今回の契約は、BOAと3者がそれぞれ取り交わすもので、対象施設、利用期間、競技、交流事業など施設利用やパートナーシップについて取り決めるものです。

慶應義塾大学では、2020年7月3日から8月11日の期間(セットアップ期間を含む)、日吉キャンパスの記念館や陸上競技場、蝮谷体育館を中心に、アーチェリー、フェンシング、近代五種競技、バドミントン、体操競技、卓球、バスケットボール、柔道、テコンドー、ボクシング、空手、ウエイトリフティング、ホッケーの計13種目を受け入れる予定です。施設の提供はもとより、研究・教育・歴史・文化・芸術などスポーツ以外の分野においても交流を深め、地域社会や国際社会への貢献のために協力していきます。

締結式の司会は、卒業生でロンドンオリンピック競泳男子200m銅メダリストの立石諒君が務めました。契約の概要説明に引き続き各代表者による挨拶があり、その後、ポール・マデン駐日英国大使による来賓挨拶、各代表者による契約書への署名を経て締結式は終了しました。

締結式終了後には会場を移し、終始和やかな雰囲気の中、レセプションが行われました。

〈参考〉

東京五輪における英国事前キャンプ地 覚書締結式(2016/02/09掲載ニュース)

<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2015/osa3qr000001dc4w.html>

英国オリンピック代表チームウェブサイト(英語)

<https://www.teamgb.com/news/team-gb-secure-tokyo-2020-pre-games-preparation-camp-facilities>



2017/11/02 慶應義塾大学

英国オリンピック委員会 ビル・スウィーニー最高経営責任者(CEO)が講演会を開催

10月18日(水)、日吉キャンパスにおいて、英国オリンピック委員会(BOA) 最高経営責任者(CEO)のビル・スウィーニー氏が、慶應義塾の職員に向けて、「Legacy and Driving the Olympic Message」と題する講演を行いました。

スウィーニー氏は、英国チームが2012年ロンドン大会、2016年リオ大会と連続して獲得メダル数を増やすなど成功を収めた背景について語りました。スポーツ人口の増加や経済効果といったロンドン大会のレガシーに加え、英国チームには今も多くのファンをひきつけるマーケティング戦略があることなどを紹介しました。

また、開催国の人々、とりわけ次代を担う子どもたちにとって、オリンピックが世界と交流する絶好の機会となることを強調し、東京2020の成功を祈願して講演を締めくくりました。

なお、日吉キャンパスでは、横浜市、川崎市とともに、東京2020大会における英国チームの事前キャンプの受け入れ準備を現在進めているところです。



2018/05/15 横浜市

英国トライアスロン、パラトライアスロンチームの 選手たちと横浜市の小学生との交流会

2018年5月11日(金)・12日(土)に、英国トライアスロン、パラトライアスロンチームの選手たちと横浜市の小学生との交流会が開かれました。

交流会では、まずはそれぞれの簡単な自己紹介。中には英語で元気よく自己紹介をした小学生がいて、選手たちに喜ばれました。それに応えるかのように、選手のひとりが日本語で自己紹介をすると、子どもたちも嬉しそうに大拍手。

自己紹介に続き、選手と生徒混合のグループに分かれ、ワークショップ。英語と日本語で選手へ応援メッセージを記入し、選手とともに発表するなど、英国や、種目に関する質問と応答を交えながらコミュニケーションを深めました。

12日は交流会のあと、英国パラトライアスロンチームの選手たちと、ちょうど開催中の2018ITU世界トライアスロンシリーズ横浜大会の山下公園周辺特設会場へ応援に出掛け、子どもたちはトライアスロンの迫力を身近に感じていました。



2018/05/28 横浜市 川崎市 慶應義塾大学

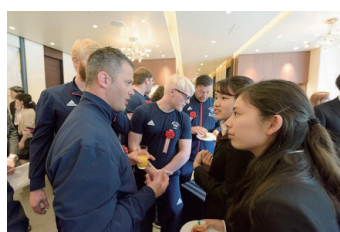
東京2020英国パラリンピック代表チームの 事前キャンプ覚書締結式開催

慶應義塾大学・横浜市・川崎市は、東京2020パラリンピック競技大会における英国パラリンピック代表チームの事前キャンプについて、英国パラリンピック委員会(BPA)と覚書を締結し、5月24日(木)に日吉キャンパス協生館のイベントホールにて締結式を行いました。

挨拶に立った長谷山彰塾長は、パラアスリートは人間の潜在力の高さや多様性を教えてくれる存在であるとし、受け入れ事業に携わることは、慶應義塾関係者にとっても素晴らしい体験になると語りました。続いて、各代表者が覚書に署名すると、会場からは温かい拍手が起こりました。4者は、事前キャンプのみならず、さまざまな文化・学術面での交流や、地域社会との交流も見据え、協力していくこととなります。

会場には多くの来賓をはじめ、英国視覚障害者柔道の選手たちも参加し、締結式後の祝賀会では学生と選手が歓談する場面も見られました。

なお、慶應義塾大学・横浜市・川崎市は、英国オリンピック代表チームの事前キャンプについても、2017年3月、正式に契約を締結しています。



〈参考〉

[プレスリリース]東京 2020 英国パラリンピック代表チーム事前キャンプ 川崎市・慶應義塾大学・横浜市が英国パラリンピック委員会と覚書を締結
英国パラリンピック委員会ウェブサイト(英語)<https://paralympics.org.uk/>

2018/07/12 川崎市

公立保育園での英国給食の提供と併せて 英国交流イベント実施しました！

英国代表チームの事前キャンプ実施の周知と応援の機運醸成のため、川崎市内公立保育園(33園)の1歳児以上約3,400人を対象として、英国を代表する料理であるフィッシュ&チップスとスコーン(おやつ)を提供しました。

2018年7月12日(木)に川崎市内在住英国人のブーヴロウ・ジェット・アクセルさんを川崎市川崎区大島保育園にゲストに招き、園児を対象とした英国交流イベントを実施しました！

英国の遊び「ロンドン橋」を紹介したところ、初めて遊ぶという子どもたちもたくさんいて盛り上がりました！園児がお礼に「川崎踊りいいじゃんダンス」を披露してくれました。ジェットさんも一緒に踊りました！



2018/05/16 慶應義塾大学

英国オリンピック委員会(BOA)の大視察団が日吉キャンパスを訪問

5月14日(月)午後、英国オリンピック委員会(BOA)の競技種目代表など45名が、東京2020大会の事前キャンプ地となる慶應義塾大学日吉キャンパスを視察しました。これまでのオリンピック・パラリンピック関連の視察団の中でも最大規模のものです。

渡部直樹常任理事からの歓迎の挨拶に応じて、BOAのビル・スウィーニー最高経営責任者(CEO)は、受け入れに対する感謝とともに、慶應義塾とBOAとの連携が、これから先も順調に進むことを確信している、と力強く語りました。今回の視察には、有志の塾生8名がボランティアとして参加し、視察のサポートを行うなど、交流を深めていました。

〈参考〉

東京2020オリンピック英国チーム事前キャンプ契約締結式(2017/03/23掲載ニュース)
<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2017/3/23/27-20137/>

英国オリンピック委員会ビル・スウィーニーCEOが講演会を開催(2017/11/02掲載ニュース)
<https://www.keio.ac.jp/ja/news/2017/11/2/27-37034/>



2018/12/04 川崎市 横浜市

英国オリンピック委員会CEOによる講演会を横浜市と川崎市の合同主催により開催しました!

川崎市は横浜市とともに英国オリンピック委員会CEOであるビル・スウィーニー氏による講演会“Delivering Success After A Home Olympics”[「ロンドン2012大会の経験を踏まえたリオ2016大会での英国オリンピック代表チーム(Team GB)の成功」]を開催しました。

12月4日(火)講演に先立ち福田川崎市長はあいさつの中で、スウィーニー氏への歓迎の言葉とともに「ホストする我々も、英国代表チームを応援していきたい。皆さんもGOGB(ゴージビー)、『がんばれ英国』を合言葉に英国代表チームを応援し、一緒に事前キャンプ、そして東京2020大会を盛り上げていただきたい」と述べました。

スウィーニー氏は講演冒頭に、リオ2016大会のハイライトシーンを集めた動画を流し、「このような素晴らしい大会を東京でも行いたい」と述べました。英国オリンピック代表チーム(Team GB)は、リオ2016大会でのメダル獲得数で、アメリカに次いで世界第2位という成績を収め、その背景には「大会前の事前キャンプの成功があった」と示し、その上で東京2020大会では「時差や暑さ、湿度など環境が大きく異なるため、事前キャンプが特に重要であり、東京にとっても近い横浜市・川崎市で行うことができることを、非常に嬉しく思っている」と述べました。

また、スウィーニー氏は東京2020大会に興味があると答えた英国人は94%というデータから、過去大会よりも高い関心を集めていることを示しました。横浜市でも行われるラグビーワールドカップ2019では「日本がスポーツの国際大会の主権国としてどのような盛り上がりを見せるか、世界が注目している」とし、「規模は違うが、ラグビーワールドカップ2019の成功が、東京2020大会につながるだろう」と、東京2020大会への期待を述べました。



2018/12/26 横浜市

英国事前キャンプ・ホストタウン応援企画 「英国と横浜を知る講座～英国の共生社会文化から学ぶ～」を実施しました

2018年12月3日、英国オリンピック委員会からゲストをお迎えし、栗栖 良依氏による英国の共生社会に着目した講演など英国文化を体験するプログラムを開催しました。当日はご応募いただいた約50名の方がご出席。会場のイギリス館がほぼ満員でした。

まずは、ビル・スウィーニー英国オリンピック委員会CEOから「東京2020大会は日本が持つ文化などを世界に発信する貴重な機会です。また、Team GBの若い選手にとっては、ここ横浜が来日してはじめての場所となります。東京2020大会が素晴らしい大会となることをお祈りしています。」とご挨拶。

続いて、ブリティッシュ・カウンシルの湯浅 真奈美さんにファシリテーターを務めていただき、講演がスタート。

栗栖さんは、骨肉腫を発症し、手術、治療という経験を経て、2011年に「SLOW LABEL(スローレーベル)」を設立。プロダクト製作の中で多くの障害者施設を訪れ、様々な出会いを通して一人ひとり違うことのすばらしさに気付きます。

そして、2012年ロンドンパラリンピックの閉会式で、障害者が特別な存在としてではなくパフォーマンスに参加している様子に驚き、日本・横浜でもできるのではと2014年に「ヨコハマパラトリエンナーレ」を立ち上げSLOW LABELをNPO法人化。表現者として舞台に立ちたいと願う誰もが、障害を理由にあきらめなくてすむ環境をつくることを目標に、東京2020大会に向け障害のある人のパフォーマンスを支援する「アクセスコーディネーター(※1)」「アカンパニスト(※2)」といった人材の育成に着手しました。

2016年リオパラリンピックの閉会式内のセレモニーではステージアドバイザーを務め、その後舞台での空中演技・エアリアルを使ったトレーニングを日本で取り入れるため、まず障害のある人を指導できる指導者を育成したいと英国の指導者を招き、指導者育成に取り組んでいます。目指しているのは、2021年以降、障害のある人が、自分の住んでいる地域で、自分の好みやレベルに応じたプログラムに障害のない人に混ざって参加できるようになること。これまでも英国のアーティストチームに協力していただき、今後も引き続き積極的に取り組んでいきたい、とのことでした。

講演の後は、この日のために、イングランドの楽曲も練習を積んできてくれた慶應義塾大学のケルト音楽愛好会の皆さんによる演奏に、ティータイムとして英国の代表的なメニュー、ミンスパイ、ソーセージパイ、ショートブレッドを用意。英国が満載な、盛り沢山のイベントとなりました。

※1 障害のあるアーティストが舞台上がるまでのバリアを取り除き、創造性が発揮できる環境を整える人材。

※2 障害のあるアーティストと一緒に舞台上がり創作の可能性を一緒に広げる伴走者。



2018/10/10 慶應義塾大学

英国パラリンピック委員会が日吉キャンパスの施設を視察

9月28日(金)、英国パラリンピック委員会(BPA)から、陸上、ブラインドサッカー、バトミントンなど10種目以上の競技リーダーからなる一行が来塾し、2020年東京大会で英国のオリンピックとパラリンピックチームが事前キャンプを行う予定の日吉キャンパスの各施設を熱心に見学しました。今回の視察には、1992年パラリンピックバルセロナ大会の水泳(50m 自由形 S9)金メダリスト、クリア・カニンガムさんも参加しました。

視察団ははじめに慶應義塾側から2020年3月に竣工予定の施設について説明を受け、BPA側の専門家からは、天井の高さ、床の素材、ライトの照度等、多岐にわたる質問がなされました。次に訪れたプールやトレーニング施設では、多目的トイレの場所やシャワー室の広さ、段差など、バリアフリーの観点も踏まえての視察が行われました。

慶應義塾はBPAと2020年東京大会の事前キャンプ受け入れについて、2017年12月に合意を交わしており、今後も協力を続けていきます。



2018/10/26 慶應義塾大学

アーチェリーとボート競技の英国選手が 慶應義塾大学で合同練習

10月15日(月)～22日(月)にかけて、アーチェリーとボート競技の英国選手が、慶應義塾大学日吉キャンパスでの初めてのトレーニングキャンプを行いました。

慶應義塾大学は、横浜市、川崎市とともに、2020年に英国代表(Team GB)の事前キャンプをホストすることが決定しています。キャンプ期間中、慶應義塾体育会洋弓部、端艇部との合同練習や交流試合が行われ、親交を深めました。

10月19日(金)夜には、駐日英国大使館公邸において、選手を招いてのアフタヌーンティーが開催されました。アフタヌーンティーには、慶應義塾大学端艇部主将も招待され、英国選手に混じてエルゴメーターを漕ぐ場面もありました。



2018/11/02 慶應義塾大学

英国パラリンピック委員会(BPA)CEOの ティム・ホリングスワース氏が長谷山塾長を表敬訪問

10月23日(火)、BPAのCEOであるティム・ホリングスワース氏が来塾し、パラリンピック英国代表(Paralympics GB)の事前キャンプ受け入れ決定から今日までの支援に対し、長谷山彰塾長に感謝の意を表しました。

ホリングスワース氏は、11月からスポーツ・イングランドのCEOに就任することが決まっています。長谷山塾長は、事前キャンプの受け入れについて、これまでどおり大学として確実に支援することを表明しました。また、2020年の事前キャンプが奏功し、英国代表が好成績を取ったときには、その喜びを分かち合うために、ぜひ再訪してくださいとホリングスワース氏に伝えました。



2018/11/16 慶應義塾大学

水泳の英国代表チームが 日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施

11月3日(日)～8日(木)の間、水泳競技の英国代表チームが日吉キャンパスでトレーニングキャンプを行いました。

今回来日した選手は、11月9日(金)～11日(日)に東京辰巳国際水泳場で開催された「水泳ワールドカップ東京大会」に出場するにあたり、本学で最終調整を行いました。2016年リオ大会のメダリスト、ジェームズ・ガイ選手やシボン・マリエ・オコナー選手も今回のトレーニングキャンプに参加しました。

滞在中には慶應義塾女子高・志木高・湘南藤沢中高の生徒らが公開練習を見学し、選手と記念撮影をする等の交流が行われ、トレーニングキャンプでは体育会水泳部、および理工学部体育会水泳部との合同練習も行いました。



2019/02/15 慶應義塾大学

日吉キャンパスのバリアフリー施設の改善に向けて 英国パラリンピック委員会と連携

2月7日(木)、2020年の事前キャンプ受入れ準備の一環として、英国のグローバル・ディスアビリティ・イノベーション・ハブ(GDIハブ)の運営ディレクター、イアン・マキノン氏と、英国パラリンピック委員会(BPA)のプレパレーション・マネジャー、アネリ・マクドナルド氏が日吉キャンパス内のバリアフリー施設を視察しました。

マキノン氏は、バリアフリー施設に関する改修などを専門とするコンサルタントです。管財部などから同行した慶應義塾大学のスタッフにとって、マキノン氏の専門家としての知見と2012年のロンドンパラリンピック競技大会での経験を共有する、貴重な機会となりました。慶應義塾は、事前キャンプ本番に向けて既存の施設を適宜更新していく予定です。



2019/03/08 慶應義塾大学

マイク・シャロック英国パラリンピック委員会(BPA)新CEOが 長谷山塾長を表敬訪問

3月4日(月)、BPAの新しいCEOマイク・シャロック氏とパラリンピック東京大会の英国チーム代表の責任者、ペニー・ブリスコー氏が、三田キャンパスにて長谷山彰塾長と渡部直樹常任理事を表敬訪問しました。

シャロック氏は、まず、英国チームの事前キャンプを日吉キャンパスで受け入れる慶應義塾大学に対し、感謝の言葉を述べました。慶應義塾大学は、これまでも数々のBPAスタッフの視察を受け入れたほか、事前キャンプの本番に先んじて、日吉キャンパスの関連施設の改修を検討中です。シャロック氏はまた、前任CEOのティム・ホリングスワース氏から、幸運にもブリスコー氏率いる強いチームをそのまま引き継いだこともあり、トップの移行が非常にうまく進んだ、と明かしました。

シャロック氏は、この1月にCEOに着任したばかりですが、2012年ロンドン、2016年リオの両大会において、ティア1スポンサーのひとつであるBP社のパートナーシップの責任者でした。そうした経験から、同氏は、パラリンピック・ムーブメントのもつ力と、社会に非常に大きなインパクトをもたらすパラ・アスリートのポテンシャルというものを強く確信し、東京でも同様の変化が起きるのを、心から楽しみにしていると語りました。

長谷山塾長は、教育という側面から、英国のスポーツ、特に大学スポーツに敬意を抱いている、と応じました。スポーツのアマチュアリズムは、オリンピック・パラリンピックの精神と同様、英国の大学スポーツに由来するからです。また、長谷山塾長は、前日に開催された東京マラソンの種目に車いすマラソンが含まれていることなど、日本においても障がい者スポーツに対する関心が高まっていることを指摘した上で、慶應義塾大学も引き続き英国パラリンピックチームを支援することを約束し、英国チームとスタッフからできるだけ多くを学びたい、と改めて表明しました。



2019/03/14 川崎市

きかんしゃトーマスとなかまたちが 川崎市英国事前キャンプのPR大使に就任します！ トーマス、ジェームス、パーシーがPR大使に就任

より多くの方々に英国代表チームのことを知り、応援してもらいたいとの思いから、「きかんしゃトーマスとなかまたち」のマスターライセンスを保有する株式会社ソニー・クリエイティブプロダクツ(本社:東京都港区、代表取締役:長谷川 仁)の協力のもと、「トーマス」、「ジェームス」、「パーシー」が、川崎市での英国事前キャンプ受入れに向けたPR大使として就任しました。

2019年4月から、「きかんしゃトーマスとなかまたち」のPRデザインを使用して、英国代表チームのキャンプ情報や関連イベントのお知らせなど、チラシ、ポスターをはじめとしたさまざまな広報媒体を通じて、川崎市全域で応援機運を醸成していきます。



行政とのコラボレーションは初めて

「きかんしゃトーマス」は、イギリスの牧師、ウィルバート・オードリーが描いた「汽車のえほん」シリーズから生まれたキャラクターです。ソドー島という島を舞台に、そこで働くトーマスや機関車のなかまたちが、さまざまな出来事を通じて友情をはぐんでいくストーリーは、こどもたちに大人気。2020年には、原作出版75周年を迎えます。

広報用として使用する主なPRデザイン

左からパーシー、トーマス、ジェームズの3キャラクター。川崎市のブランドメッセージの3色で英国との友情を表現しました。これらのPRデザインは英国事前キャンプの関連イベントお知らせや、チラシ、ポスターなど、さまざまな広報媒体で使用します。

© 2019 Gullane (Thomas) Limited. (注意)これらの著作物の全部または一部を著作権者の許諾を得ずに複製することは著作権法で禁じられています。

2019/05/16 川崎市

英国陸上チームと、 川崎の市立高校陸上部メンバーとの交流事業を開催しました

令和元年5月8日(水)、IAAF 世界リレー2019 横浜大会(11日、12日、横浜国際総合競技場)に出場する英国代表チームと、市立高校の陸上部メンバーとの交流事業を開催しました。

英国代表リレーチームは、2017年世界陸上での金メダリスト(男子)、リオ五輪での銅メダリスト(女子)など、そうそうたるメンバーを擁しています。

世界トップレベルの選手とコーチに直接会える機会を得た川崎市立橘高等学校、川崎市立川崎総合科学高等学校、川崎市立高津高等学校の陸上部のメンバーたち59人は、スタンドから食いつくように選手たちの練習風景を見つめていました。

スキルクリニックでは、コーチのステイブ・マクガイアさんから直接指導を受けました。英国選手たちも高校生の列に混じって、同じメニューをこなします。その後、グループに分かれてバトンパスリレーや、シャトルラン形式のリレーに挑戦。勝ったチームは、英国選手と「ハイファイブ」で喜び合いました。

「速く走れるようになるためにはどうすればいいか教えてください」という高校生からの質問に対して、「よく練習して、よく寝て、よく食べて、決して諦めないこと」と回答してくれたのは、アニカ・オヌオラ選手でした。彼女は、リオ五輪の4×400リレーで銅メダルを獲得した走者の一人です。

高校生たちは英国代表チームから贈られたピンバッジを手に、「(週末にある)大会で自己ベストを出したい」と目を輝かせていました。



2019/05/20 横浜市

ローズ&ガーデンマーケットで英国事前キャンプホストタウンをPR!! ～英国と横浜をつなぐ親善大使のひつじのショーが大活躍!～

最高のお天気に恵まれた5/18(土)、19(日)の週末、今回初開催となる「横浜ローズウィーク」の一環で、日本大通りで開催された「ローズ&ガーデンマーケット」において、英国事前キャンプホストタウンPRブースを出展しました。

ここでは、英国事前キャンプについてのパネルを展示。英国と横浜をつなぐ親善大使の「ひつじのショー」のオリジナル缶バッジのワークショップを実施したほか、折り紙で作ったバラに英国チームへメッセージを書いていただくなど、多くの方に参加していただきました。特に、ひつじのショーの缶バッジのワークショップには長蛇の列が!横浜オリジナルデザインのショーの缶バッジに、みなさん大変喜んでいただきました。

また、「ひつじのショー」も大きなバラの花を持って登場し、「GO GB」を合言葉にショーと一緒に写真を撮るなど、英国事前キャンプのPRと賑わいづくりに大活躍でした。多くの来場者にご参加頂き大盛況の2日間でした。



2019/06/04 横浜市

2019年英国トライアスロンチーム・パラトライアスロンチームとの交流

今年も5月18日(土)、19日(日)に2019ITU世界トライアスロンシリーズ・パラトライアスロンシリーズ横浜大会が開催されたため、大会前日の5月17日(金)に、英国トライアスロンチーム・パラトライアスロンチーム17人と横浜市立本町小学校5年生30人の児童の皆さんとの交流プログラムを実施しました。

交流会会場では、本町小学校の児童の皆さんが「GO GB」の旗を振って英国選手をお出迎え。はじめにITU事務局長からご挨拶があり、英国チーム自己紹介ののち、5つのグループに分かれて生徒たちの自己紹介。英語でチャレンジする児童も多く選手も熱心に耳を傾けてくれました。

児童から選手への質問では、「競技を終えた時はどんな気持ち?」「もし、自転車がこわれちゃったら、どうする?」「トライアスロンをはじめたきっかけは?」「3種目(水泳・自転車ロードレース・長距離走)の中で、いちばん大変な種目は?」など積極的に質問が飛び交い、選手の皆さんの答えを真剣にメモを取っていました。

また、選手たちにお気に入りの応援フレーズを覚えてもらい、各グループごとに発表!「GO GB!」「Come on!」「Let's Go GB!」「ICE (S) CREAM!」などグループごとにまとめた内容を児童の皆さんは立派に発表してくれました。

最後に、四季の森小学校の児童の協力で作成してくれた花の写し絵カードに、児童が英国チームあてにカードにメッセージを書いてプレゼント。更に本町小学校の児童から、歌と踊りと応援のプレゼントに英国選手の皆さんは大喜びでした。そして、レース前の緊張がほぐれた選手等全員で記念写真を撮って、ハイタッチで選手たちを送り出しました。



2019/05/16 川崎市

英国パラリンピック委員会(BPA)と川崎市は 東京2020大会事前キャンプ施設利用に関する契約を締結しました

2019年4月24日(水)に、英国パラリンピック委員会(BPA)CEOのマイク・シャロック氏が来日し、川崎市の福田市長と事前キャンプに向けた施設の賃借に関する契約書を取り交わしました。

今回は、陸上競技について利用調整及び契約内容が整ったため、川崎市等々力陸上競技場に関して先行して契約したものです。

シャロックCEOは、「昨年の覚書締結に続き、BPAと川崎市との関係の重要な節目を示すことになる。ワールドクラスの等々力陸上競技場で、大会への最終調整を行えることは選手にとって大変有益。」と事前キャンプへの期待を寄せました。

川崎市では、これを契機に、英国のホストタウンとして、2020年に向けて事前キャンプの受入準備を進めるとともに、交流を促進するための具体的な取組を推進していきます。



2019/07/11 慶應義塾大学

BOAスタッフと慶應義塾職員が準備会合を実施

7月4日、BOA(英国オリンピック委員会)のスタッフと義塾職員が、今回の英国代表チーム(チームGB)の日吉キャンパスでのトレーニングキャンプと、2020年に向けての準備会合を行いました。

ルイス・コギンズ氏(事前キャンプ・プロジェクトマネージャー)がBOAのさまざまな活動についてプレゼンテーションを行ったほか、ナサニエル・ライリー・オドネル氏(事前キャンプ・スポーツマネージャー)、アミア・アシュトン・ジョーンズ氏(プログラムマネージャー)、ニッキー・フィリップス氏(事前キャンプ・ヘッド)が参加しました。

義塾からは、日吉運営サービス、塾長室、グローバル本部の職員が出席しました。今回のキャンプから今後の課題まで、約2時間にわたり現場同士の濃密で活発な議論が交わされました。



2019/08/29 慶應義塾大学

英国オリンピック委員会(BOA)、 パラリンピック委員会(BPA)が信濃町キャンパスを訪問

8月14日(水)、英国オリンピック委員会(BOA)と英国パラリンピック委員会(BPA)の一行計9名が、信濃町キャンパスを訪問しました。

東京オリンピックのメイン会場であるオリンピックスタジアム(新国立競技場)に最も近い病院である慶應義塾大学病院の外来や病棟に加え、救急センターやMRI等の画像診断設備、予防医療センターを視察しました。

病院の見学後、総合医科学研究棟1階ラウンジにおいて、医学部との合同セミナーが開催されました。スポーツ医学研究センターの石田浩之教授の司会のもと、天谷雅行医学部長が医学部・病院の紹介を行い、英国代表チームパフォーマンスサービス責任者のグレッグ・レッター氏が英国代表チームのオリンピックへ向けた準備状況についての講演を行いました。続いて、英国代表チームの医療チーフであるニール・エリオット医師と慶應義塾大学精神・神経科の水島仁医師により、スポーツにおける脳震盪に関連した診断や管理、症例の研究などについての講演が行われました。セミナー後にはオリンピックを見据えた講演の内容についてBOA、BPAおよび医学部の教員、学生等の参加者による活発なディスカッションが行われました。

慶應義塾大学は、東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて英国代表チームの事前キャンプを日吉キャンパスで受け入れ、研究・教育・歴史・文化・芸術などスポーツ以外の分野においても協力していく予定です。今回の訪問は、BOA、BPAと医学部・慶應義塾大学病院の関係者が相互に理解と交流を深める機会となりました。

本学とオリンピック・パラリンピックに関しては、以下のページで随時、情報発信しています。



2019/09/12 慶應義塾大学

柔道の英国代表チームが 日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施

8月21日(水)～23日(金)の間、柔道の英国代表チーム(Team GBおよびParalympicsGB)が日吉キャンパスの柔道場でトレーニングキャンプを行いました。

1年後に迫った東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会出場に向けて、本国との時差や、大会本番と同時期の日本の気候に慣れるための調整を中心にトレーニングを行いました。柔道選手としての精神修養の一環として、練習の最後には道場を掃除してトレーニングを終えました。

8月22日には、英国放送協会(BBC)の取材も入り、英国内でも東京2020大会と選手の活躍にますます関心が高まっています。



2019/09/24 慶應義塾大学

テコンドー英国代表チームが日吉キャンパスの施設を見学

大型台風が過ぎ去った翌日の9月10日(火)、テコンドー英国代表チーム一行が、晴天の日吉キャンパスを訪れました。

今回は、パフォーマンスディレクターを務めるゲアリー・ホール氏を含むメンバー14名が、来年の事前キャンプ中、練習や食事ですり可能性のある協生館などの各種施設を見学しました。

今回初めて日吉キャンパスを訪問したメンバーは、協生館内に施された装飾をとて喜び、お互い記念写真を撮りあっていました。また、協生館から見える日吉キャンパスの風景に感銘を受け、見入っていました。



2019/10/08 横浜市

【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第1弾!】横浜国際プールで英国水泳代表チームの プレ事前キャンプが行われました!

2019年7月8日(月)～16日(火)に、2019年世界水泳選手権(7/12～28に韓国・光州で開催)に向けた英国水泳代表チームのプレ事前キャンプが横浜国際プール(横浜市・都筑区)で行われました。

英国代表チームは総勢56人が来日(選手30人・スタッフ26人)。ボランティアとして、総勢33人の方々にお手伝いいただき、9日間に渡り英国選手の皆さんのトレーニングをサポートしました。

7月8日(月)、キャンプ初日の朝は、近隣小学校の児童の皆さんおよそ370名が「GO GB」の旗などを手に、チームの皆さんをお出迎え。選手もスタッフも、子どもたちの歓迎ぶりに、思わず笑みがこぼれ、初日のトレーニングに向け、国際プールへと入って行きました。横浜国際プールでは、選手たちの活躍を願って、英国チームが主に使用するメインプールを中心に、英国旗や応援旗、児童有志によるガラスアートなどで装飾。沢山の英国旗やGO GBのメッセージで応援を伝えました。第2弾以降で詳細についてお伝えします!



2019/10/15 横浜市

【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第2弾!】公開練習に総勢700名の子どもたちが参加しました!

7月8日(月)~16日(火)の英国水泳代表チームのプレ事前キャンプでは、7月12日(金)と13日(土)に公開練習を行いました。

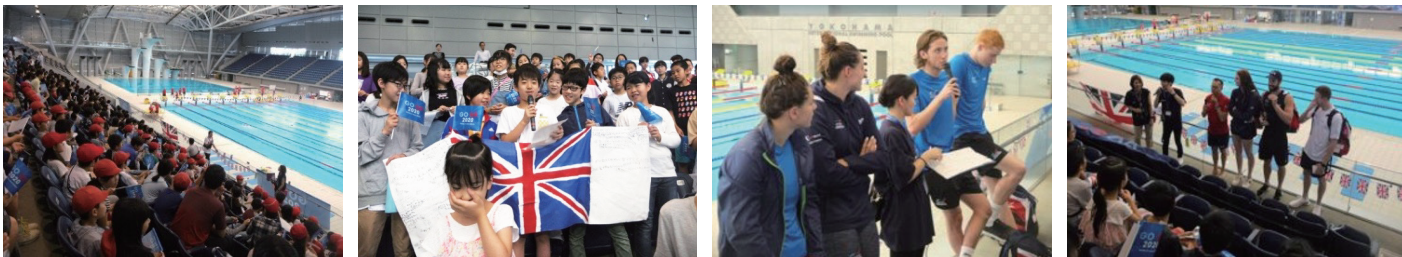
オリンピックのメダリストも多数在籍する英国の水泳代表チーム。参加した総勢700名の子どもたちは、世界的なトップアスリートたちの生の泳ぎを間近で見学しました。

まずは、横浜国際プールの林支配人による解説を聞きながら、選手たちの迫力ある泳ぎを見学。選手たちがリレーの練習やタイムをとる練習を始める時は英国チームのスタッフたちが教えてくれ、子どもたちも「GO GB!」の掛け声とともに、熱心に声援を送っていました。

その後、英国チームのスタッフやトレーニングを終えた選手が、子どもたちがいる観客席まで来てくれ、子どもたちからの質問に答えてくれました。選手たちへの質問タイムでは、「一日の練習時間はどのくらいですか?」や「どうして水泳を始めようと思いましたか?」「どうやったら練習に集中できますか?」など、多くの質問が飛び交います。

リオ2016大会で銀メダリストのジェームス・ガイ選手は、「僕は3才までは、まったく泳げず金槌だった。でも学校に通うようになって、水泳の楽しさを知り、地元の大会に出られるように頑張っただけで練習を積み重ねた結果、今の僕がある」と、何事にも日々の努力が大事だということ子どもたちに教えてくれました。

最後は、選手の皆さんが子どもたちに交じって、記念撮影。貴重な体験をした子たちは、みんな笑顔で会場を後にしました。第3弾では、英国選手の日本文化体験の様子をお伝えします!



2019/10/21 横浜市

【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第3弾!】英国水泳チームが日本文化を体験!

7月12日(金)と15日(月)の2日間、英国チームの皆さんに少しでも日本文化を味わっていただこうと、トレーニングの合間に日本文化の体験プログラムを実施しました。

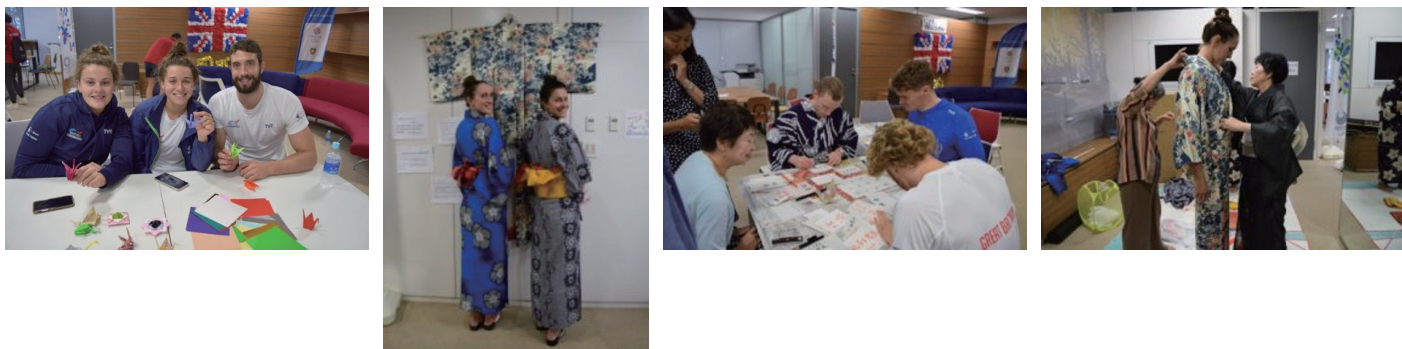
今回、用意したのは、着付け体験、書道レッスン、折り紙レッスンの3つ。それぞれのブースで、都筑区で活動する講師の先生方にご協力いただきました。

ブースに立ち寄ってくれた選手やスタッフの皆さんは、休憩時間とあってリラックスした様子。女性に人気だったのは浴衣・着物の着付け体験で、鮮やかな色合いの着物の袖に手を通し、様々なポーズで写真を撮っていました。

折り紙レッスンでは折り鶴に挑戦。初めての折り紙に少々苦戦しながらも、色とりどりの折り鶴を綺麗に作成。先生ご持参の折り紙作品に感嘆していました。

書道体験では、英語で意味が添えられた漢字リストから、思い思いの漢字を選んだり、自身の泳法の漢字を聞いて、はがきに筆ペンで清書。特に人気だったのは名前を漢字で書くプログラムで、書道の講師の方に自分の名前を漢字で書いてもらい、その後何度も熱心に練習していました。自分だけではなく、家族や友人の名前などをカードに書いて持ち帰っていく選手も。

慣れない環境の中、毎日非常にハードな練習メニューをこなす選手たちにとって、この日本文化体験プログラムが憩いの場となっていたら幸いです。第4弾では、横浜国際プールの装飾についてお伝えします!



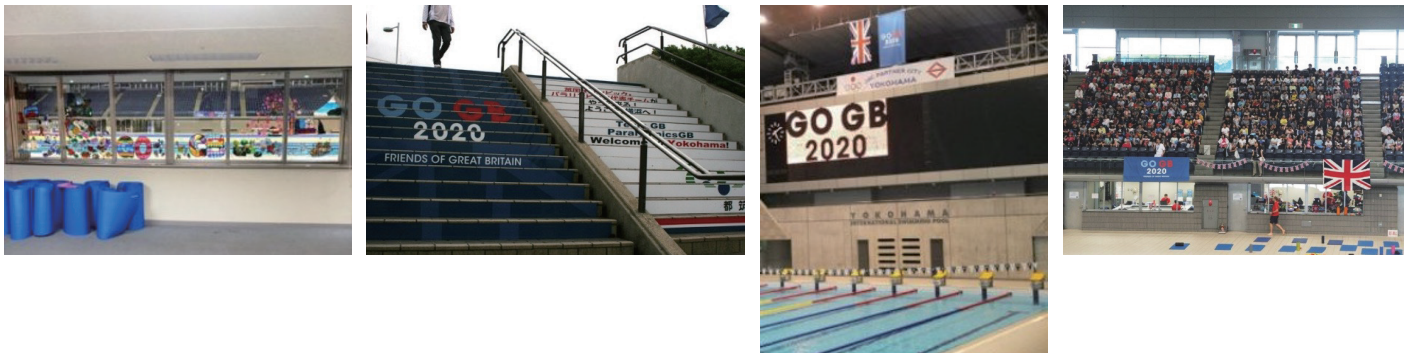
2019/10/29 横浜市

【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第4弾!】横浜国際プールが英国歓迎ムード一色に!

9日間に渡るキャンプ期間中、歓迎と応援の気持ちを伝え、世界水泳での英国選手の皆さんの活躍を願い、横浜国際プールを様々な形で装飾しました。

横浜市営地下鉄グリーンライン北山田駅から横浜国際プールまでの長い階段に、近隣の住民の方々のご理解の下、のぼり旗と階段装飾を設置。車両入場時に一番目に目に入る正面入り口のポールには英国旗を掲げました。

英国水泳チームが練習するメインプール内には、GO GB 2020の大きな応援バナーや「勝」と書かれた横断幕、英国旗を装飾。英国チームが使用するミーティングルームのガラスには、都筑区の子もたちが作成してくれた、英国と横浜のモチーフをふんだんに取り入れた、色鮮やかなガラスアートを設置しおもてなし。一般のお客さんも出入りする正面ロビーには、キャンプ期間前から英国応援ブースを設置。英国や横浜のつながりを紹介するPRパネルや、英国と横浜をつなぐ親善大使「ひつじのショーン」のフォトパネルのほか、英国ぬりえコーナーが登場! 国際プールに来場した子どもたちがたくさんの英国ぬりえを作ってくれ、前を通る選手のみならずも嬉しそうに眺めていました。第5弾では歓送セレモニーについてお伝えします!



2019/11/05 横浜市

【横浜英国プレ事前キャンプレポート・第5弾!】歓送セレモニーを行いました!

キャンプ最終日の7月16日(火)、9日間に渡るキャンプを終えた英国代表チームの皆さんを送り出すため、近隣小学校の児童の皆さんによる歓送セレモニーを行いました。

横浜国際プールコーラスクラブの皆さんによる『Believe』の合唱にのせ、最終練習を終えた英国チームの皆さんが入場。

北山田小学校の皆さんから選手たち1人1人へのメッセージカードが贈られ、東山田小学校の皆さんはリコーダーで『世界の約束』の演奏をプレゼント。続いて、横浜市より、英国チームの皆さんに、激励の言葉とともに記念品を贈呈。

英国代表チームのリーダー、クリス・スパイスさんからは、お礼の言葉とチームの皆さんが寄せ書きをしたメッセージボードをいただきました。最後に、全員で記念撮影した後、子どもたちが花道を作ってくれ、英国チームの皆さんを無事に送り出すことが出来ました。参加してくれた選手・スタッフは皆さん笑顔で横浜国際プールを後にしました。

9日間に渡る、横浜国際プールでの初めての英国事前キャンプは、2020年に向け様々な側面でシミュレーションをする事ができる貴重な機会となりました。次回は1年後、いよいよ東京2020大会に向けた事前キャンプです!

これからも英国代表チームの応援をよろしくお願いします!



2019/11/13 慶應義塾大学

英国オリンピック委員会(BOA)の 新CEOアンディ・アンソン氏が長谷山塾長を表敬訪問

11月5日(火)、BOAのCEOに新たに就任したアンディ・アンソン氏が、リーガル・ディレクターのシャハブ・ウディン氏とともに三田キャンパスを訪れ、長谷山彰塾長、渡部直樹常任理事、小尾晋之介常任理事と面会しました。

アンソン氏は、2017年のBOAとのパートナーシップ契約締結以来、日吉キャンパスを訪れた選手やスタッフは皆、慶應義塾が提供する環境や教職員・学生のホスピタリティあふれる対応に大変満足していると述べ、これまでの協力と支援にあらためて感謝の意を表しました。これを受けて長谷山塾長も、体育会の学生が英国代表チームの選手らと交流するまたとない経験ができたことや、医学部の教員が2012年ロンドンオリンピックの際の医療関係者を訪問し、大会期間中のオペレーションについて学ぶ貴重な機会を得たことを例に挙げ、お礼の言葉を述べました。



2019/11/14 川崎市

アンディ・アンソン英国オリンピック委員会新CEOが 福田市長を表敬訪問されました

福田紀彦川崎市長を表敬訪問、等々力陸上競技場の視察も

11月5日(火)、アンソン新CEOからは、台風19号で川崎市が受けた被害に対するお見舞いとともに、「今年5月に陸上選手たちが、等々力陸上競技場でトレーニングを行い、世界クラスの競技場を肌で経験した。東京2020大会に向けて、最高の環境で準備できると確信している」との言葉がありました。福田市長は「英国オリンピック代表チームの事前キャンプが川崎市で行われることは、我々市民を大いに勇気づけてくれるだろう」と、英国事前キャンプへの期待を伝えました。

アンソン氏はその後、英国オリンピック代表チームの、陸上、女子サッカー、男女7人制ラグビーが事前キャンプを行う等々力陸上競技場を初めて視察されました。競技場の芝生の美しさや、青く真新しいトラックを確認し、「このような素晴らしい施設で事前キャンプを行える選手たちは非常にラッキーだ」と喜んでおられました。



2019/11/22 横浜市

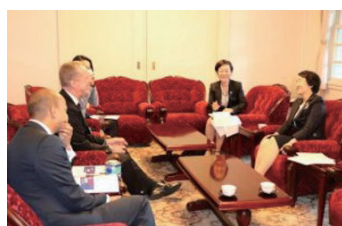
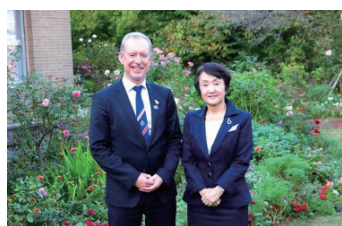
11月5日(火)英国オリンピック委員会(BOA) 新CEOアンディ・アンソン氏が林文子横浜市長を訪問されました

林文子横浜市長を表敬訪問、英国代表チーム受入れへ期待を表明

11月5日(火)、英国オリンピック委員会(BOA)の最高経営責任者(CEO)に就任したアンディ・アンソン氏が、シャハブ・ウディン法務局長とともに、林文子横浜市長を表敬訪問されました。

アンソン新CEOは、英国プレ事前キャンプをはじめとする今までの横浜市の協力に対し深く感謝の意を述べたほか、「チームとしても非常に素晴らしい横浜の施設に感銘を受けている、2020年を十分に整った形で迎えられれば」との言葉をいただきました。

また、11月2日に横浜国際総合競技場で行われたラグビーワールドカップ2019TM決勝戦を観戦され、「素晴らしいスタジアムとホスピタリティに感動した」との事で、東京2020大会に向けても、「ラグビーワールドカップの素晴らしい結果を拝見して、組織としても、サポート体制としても大変感銘を受けたので、次のイベントであるオリンピック・パラリンピックも十分成功すると自信を持っていえる」とも述べました。



林市長からは、「英国代表チームの事前キャンプ地に選ばれたことを光栄に思う。また、選手の皆さまには、市内の子どもたちとの交流機会をいただき、大変ありがたく思っている。今後も、選手の方が気持ちよく実力を出せるように、横浜市で一体となって、心をこめて全力で英国のみなさんをお手伝いさせていただく。」と、英国代表チームへの感謝と期待を伝えました。

2019/10/28 慶應義塾大学

ボート競技の英国パラリンピック代表チームが 日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施

10月3日(木)～8日(火)の間、ボート競技の英国代表チーム(ParalympicsGB)が日吉キャンパス協生館でトレーニングキャンプを行いました。

開催まで1年を切った東京2020パラリンピック競技大会出場に向けて、事前キャンプ地となる日吉キャンパスの施設を実際に使用した練習とあり、選手たちは常に集中力を切らさず、真剣な表情でトレーニングに励んでいました。滞在中、チーム一行は協生館でのトレーニングのほか、パラリンピックの都内会場の視察も行いました。



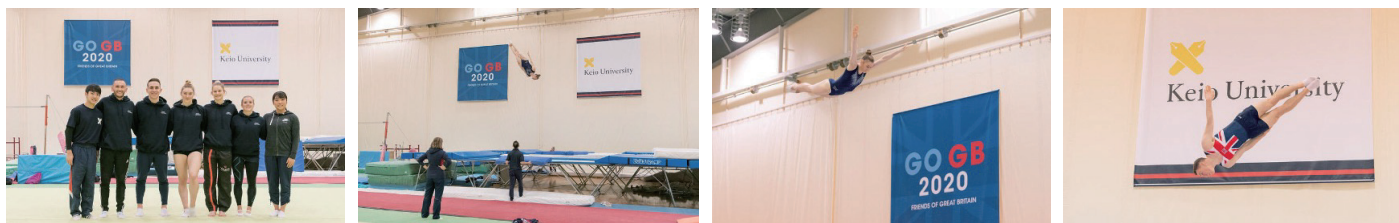
2019/12/09 慶應義塾大学

トランポリンの英国代表チームが 日吉キャンパスでトレーニングキャンプを実施

11月20日(水)～23日(土)の間、英国代表チーム(Team GB)のトランポリン選手が日吉キャンパス蝮谷体育館でトレーニングキャンプを行いました。

東京2020オリンピック開催まで残すところ約8ヶ月、チームがこの施設を使用するのは、7月以来2度目となります。チームの来日直前、慶應義塾体育会器械体操部(トランポリン)部員がベッドを新しく張り替えました。選手たちは、真新しいベッドから高度な技を次々と繰り出しました。

その後11月28日(木)～12月1日(日)に有明体操競技場で開催された世界選手権大会で、英国チームは女子団体で2位となりました。



2019/11/11 横浜市

～日英交流年「UK in JAPAN 2019-20」～ BBCスコティッシュ交響楽団の演奏者と横浜市内の小学生が音楽で交流

在日英国大使館とブリティッシュ・カウンシルの日英交流年「UK in JAPAN 2019-20」の一環で、英国で125年の歴史を持つ世界最大級クラシック・ミュージック・フェスティバル「BBC Proms」が2019年10月に日本初開催。初来日した「BBCスコティッシュ交響楽団」と北山田小4年生93人、東山田小5年生110人が、10月28日に音楽による交流を行いました。

児童がスコットランドの旗やウェルカムボードを掲げてお出迎え。交響楽団の皆さんも笑顔でハイタッチしたりするなどすぐに打ち解け、あいさつがわりの演奏で交流スタート！間近での演奏にとっても興味深く耳を傾けていました。つづいて演奏者がそれぞれ自己紹介と楽器紹介！フルート、ホルン、トランペット、バイオリン、ビオラ、チェロ、パーカッションです。

BBCスコティッシュ交響楽団では、子どもや高齢者、障害者など、多様な方々との音楽を用いたワークショップを盛んに行っており、今回の交流の中でも、楽器を使わず、声や、体を叩いて音を出すボディパーカッションを使って、短い時間ながら全員で「コネクトイット」という一つの曲を作り上げました。みんなで体を動かした後は、交響楽団から、ムソルグスキー「展覧会の絵」から3つの曲を演奏。最後は、スコットランドの伝統音楽の演奏にのって、児童たちの踊りで締めくくりました！

音楽交流の後、北山田小学校では、演奏者が各クラスに分かれて児童たちと一緒に昼食。児童が英語で一生懸命話しかけたり、演奏者の皆さんにお箸の使い方を教えたり、お豆をお箸でつまむ難しさを楽しんだり、笑い声が絶えませんでした。



2019/11/11 川崎市

川崎市立さくら小学校で英国交流イベントを開催しました 英国について学んで、英国代表チームを応援しよう！

川崎市では、10月31日(木)川崎区にある市立さくら小学校で、駐日英国大使館オリンピック・パラリンピック参事官のグレッグ・マルハーンさんをゲストにお招きして、4年生児童との交流事業を実施しました。

まずは、マルハーンさんから、英国に関するクイズを出していただき、英国発祥のスポーツ(サッカー、ラグビー、ホッケー)や、英国の首都ロンドンではこれまでに3回(1908年、1948年、2012年)夏季オリンピック・パラリンピック大会が行われていることを学びました。さらに、英国と日本の小学校の違いや、マルハーンさんがお勤めの大使館の仕事についても教えていただきました。

この日は、ラグビーワールドカップ2019の決勝戦を週末に控えていたこともあり、ラグビーについても話題が及びました。「英国には、いくつラグビーチームがあるでしょう」という質問に対して、児童たちは少し悩んだ様子ながら、見事4つのチーム(イングランド、ウェールズ、アイルランド、スコットランド)を言い当てました。

交流会の後、みんなで給食をいただきました。さくら小学校創立10周年記念の献立は、児童たちに大人気の味噌ラーメンと唐揚げ、そして湘南ゴールドのゼリーでした。炭水化物を補うために小さなシソおにぎりもついています。

「英国の小学校には給食がないので、みんなサンドイッチなどの軽食を持って学校へ行きます」とマルハーンさんから教えていただきました。

